

Buddycomを導入して良かったこと

“ PHSからBuddycomへ切替え、 手術センターにおける連絡効率を改善！

病院

手術センター



病院の手術センターでは、スタッフの所在把握が難しく、PHSや固定電話といった限られた連絡手段により、さまざまなコミュニケーション課題が発生していました。

緊急手術時には、担当者への連絡に時間がかかり準備が遅れることや、応援スタッフの確保に手間が生じることがありました。また、機器トラブルへの初動対応の遅れや、手術室間での状況共有不足も問題となり、リーダーの負担増加や若手スタッフの不安感につながっていました。その結果、連絡や人員探索に多くの時間と労力がかかっていました。

こうした課題を解決するため導入されたのがBuddycomです。

Buddycomはクリアな音声通話に加え、会話内容を自動で文字起こしできるため、聞き逃しがあっても後から確認できる点が大きな利点です。

さらに、手術中でもハンズフリーで操作できるため、業務効率の向上にも寄与しています。

専用イヤホンマイクによりBluetooth接続も安定しており、特に医療業界で国内初採用となる軟骨伝導ヘッドセット「Buddycom Open」は、耳を塞がず周囲の音も聞き取れるため、安全で快適なコミュニケーション環境を実現しています。



導入前の課題

- **所在把握の難しさ**: 手術後や次の手術の準備をするスタッフを探すのが大変だった
- **リーダーの負担大**: 連絡がPHSに集中し、繋がりにくいことが多かった
- **スタッフ連携不足**: 手伝いが必要な時、他のスタッフを探すのに時間がかかり、業務の遅れが生じることがあった
- **若手スタッフの不安**: イレギュラーな事態への対応に不安を感じていた
- **情報共有不足**: 各スタッフが他の手術室やスタッフの状況を把握できていなかった
- **無駄な時間と動作**: スタッフの探索や連絡に時間と労力がかかっていた

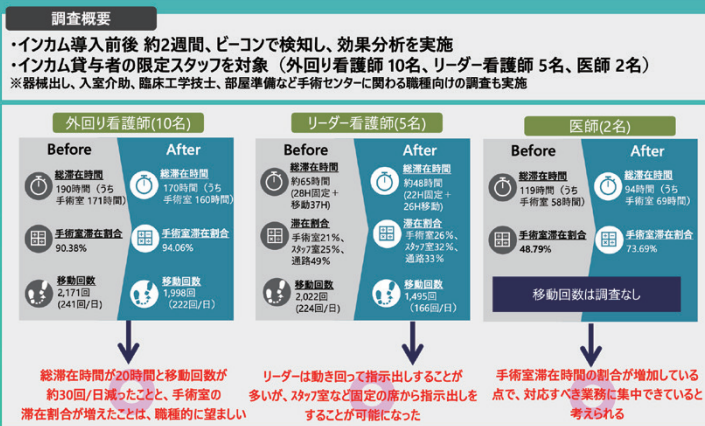
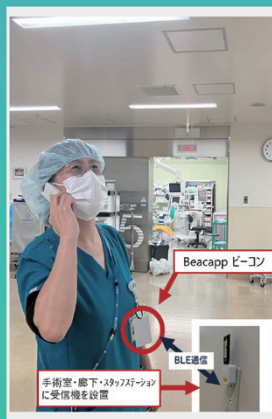
導入した理由

- 連携が迅速に出来るようになり、時間のロスが大幅に減少
- 話した内容が文字起こしされるため、聞き逃した情報も後から確認できる
- 管理画面が非常に分かりやすく、アプリも使いやすかった
- 軟骨電動ヘッドセットBuddycom Openは、耳を塞がないため周りの音も聞こえやすく、使い勝手が良かった

PHSから
Buddycomへ切替え、
連絡効率を改善!

リーダー看護師の移動回数は**26%減少**、
医師の手術室滞在時間は**51%増加**を実現

インカム(Buddycom)による手術センタースタッフの行動変容調査 (ビーコンによる短期調査の実施)



手術センターへの導入により、看護師の業務効率が大幅に向上しました。

位置情報ビーコンによる動線分析とアンケートの結果、外回りやリーダー業務の看護師は手術室内の滞在時間が増え、移動回数や外出時間が減少しました。これは、インカムによるリアルタイムな情報共有と迅速な指示伝達により、業務へ集中できたためと考えられます。

また、インカムは情報伝達の迅速化だけでなく、多職種間の連携強化や、スタッフが安心して発言できる環境づくりにも寄与しました。



相澤病院
理事長

導入検討中の方へメッセージ

これまでの医療のやり方や医療の仕組みでは、おそらくもうこの日本社会そのものが持たないだろうという、そういう状況になっています。

自分たちの病院はどこをこれまでやってきたことをやめて、新たなものにチャレンジしていくのかそういう変革を起こさなければいけないという、その時期に今は来てるんだろうというふうに思っております。



株式会社サイエンスアーツ

Service: www.buddycom.net

お問い合わせ: info@science-arts.com